

# 内野・五十嵐まち協だより

第8号

発行 内野・五十嵐まちづくり協議会 発行日 平成30年12月



呑める人、あまり呑めない人、初めて呑む人・・・大勢のファンでにぎわった

## 内野の銘酒(樋木酒造、塩川酒造)を飲み比べ

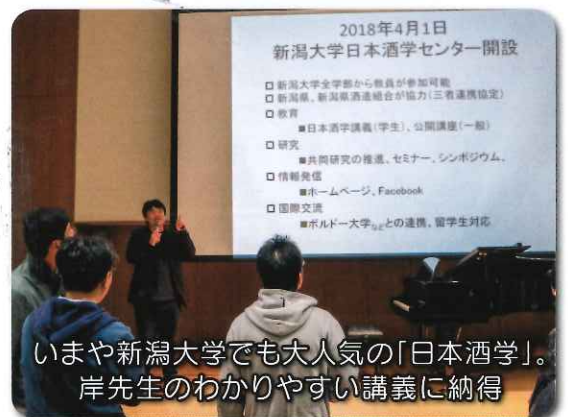
### まち協共催事業「うちのDE月見酒2018」を開催

11月4日(日)の午後4時半から、内野まちづくりセンター3階ホールで、内野の銘酒の飲み比べができる「うちのDE月見酒」が開催されました(主催は新潟西商工会青年部・まち協共催)。

今年で3回目となる「うちのDE月見酒」は、地元内野の酒蔵である樋木酒造・塩川酒造のお酒が1人1000円(オリジナル枡を購入)で試飲し放題というイベント。今回は会場を3階ホールに移し、試飲できる銘柄も7種類とぐんとボリュームアップして開催されました。

玉こんにゃく、漬け物、乾き物、唐揚げなどのおつまみ販売、栗原悠佑さんのピアノ演奏に加え、新潟大学で本年から開講した「Sakeology(日本酒学)」の岸保行さん(新大経済学部准教授)からお酒の講義もいただきました。

内野には、お酒に合うおいしいものを出す店も多くあります。2つの酒蔵のお酒を置いているお店もドリンクサービスや会計サービスなどで応援。内野はお酒を楽しむ人で遅くまで賑わいました。(新潟市の補助金を受けて開催しました)



いまや新潟大学でも大人気の「日本酒学」。岸先生のわかりやすい講義に納得



内野の銘酒とおつまみ。いろいろ楽しんでいる

## 内野の大火 忘れないで

### ● 内野大火写真展(7月21日～31日) 越後新川まちおこしの会

内野町は、過去に2度、大火で町の中心部を焼失しています(大正4年に200戸、昭和28年には120戸)。甚大な被害を受けながらも、昭和28年の大火の際には、5日後に仮店舗を建てて営業を開始するなど、町の人たちの強靱ぶりを示しました。

「内野大火写真展」(越後新川まちおこしの会)では、昭和28年大火の新聞記事や写真を展示。多くの来場者が当時を忍んでいました。

「災害に強いまちをつくるためにも、当時の出来事を風化させてはなりません。埋もれている写真などがあったら寄せていただきたい」(世話人の加藤功さん)



内野大火写真展



内野まつりカラオケ大会

## 内野は元気だ カラオケで盛り上がる

### ● 内野まつりカラオケ大会(9月16日) 新潟西商工会

内野まつりの掉尾をかざる「内野まつりカラオケ大会」。以前は、野外ステージで開催していましたが、内野まちづくりセンターのホールが使用できるようになり、すっかり内野まつりの恒例行事として定着しました。

今年は、出演者を西区(内野小学校、西内野小学校エリア)にしぼり、小学生から80代まで18名が自慢のノドを披露しました。ゲストに月岡の歌姫・澤敬子さん(遠藤実さんの門下生)が登場、持ち歌をメドレーで歌って場内は大盛り上がりでした。観客は300人以上、ホールからあふれた人たちにモニターで鑑賞してもらったほどでした。(新潟市の補助金を受けて開催しました)



うちのDE夜店まつりとビアガーデン

### ● うちのDE夜店まつりとビアガーデン (7月28日) 新潟西商工会 青年部

これまで別々に開催していた「うちのDE夜店まつり」と「うちのDEビアガーデン」をドッキング。商業部会に所属している内野商店街、新大前近辺のお店が出店。会場は大勢の人で溢れ返り、ビールやおつまみ片手にバンド演奏などを楽しみました。

### ● 夏休み子ども映画劇場(8月7日、8日) まち協福祉部

子どもたちを対象とした夏休みの映画上映会。昨年好評だったので2日間に拡大。夏休みの行事として定着しました。(西区社会福祉協議会の助成金を受けて開催しました)

### ● 懐がしの昭和キネマ鑑賞会(8月24日) まち協文化・スポーツ部

今年から始まった昭和映画の鑑賞会。プログラムは「幸福の黄色いハンカチ」と「銀座の恋の物語」。124人が参加しました。(新潟市の補助金を受けて開催しました)

### ● 内野新川ほたる写真展(10月2日～14日)

### ● アーティストインレジデンス2018 UTINO講演会(9月22日)

## 桃山時代の 風合いを楽しんで

陶芸家・佐々木呼雲さん(75)

### 志野焼、織部焼に惹かれ、のめり込んだ

……1943年、東京生まれの東京育ちだそうですね。

父は練馬区で味噌、醤油の卸の商売をやっていました。両親が笠木(西区)の出身で、この近くには従兄弟が何十人もいました。子どもの頃、父の実家によく遊びに来ていて内野とはなじみも深かった。魚釣りもしたし、水泳は新川でおぼえたんです。

……大学卒業後、法務省に入省。1978年、浜松駐在官事務所に勤務していたときに陶芸に出会った?

市民向けの「やさしい陶芸教室」というところで、茶碗、皿、鉢など食卓で使える器を個々のペースで作陶できるところがおもしろいと思いました。

焼き物は日本に何十種類とありますが、日本で作られる陶磁器の50%以上を占めるのが美濃焼。その美濃焼の中でも桃山時代に完成を見た志野焼、織部焼にいたく惹かれ、のめり込みました。

10年ほど通っているうちに、陶芸の専門誌「炎芸術」と伊勢丹共催の「ぐいのみコンテスト」で3点入選し、翌年は2点が優秀賞を受賞したのです。気持ちに火がついて、俄然おもしろくなってきた。本気で取り組む気になりました。89年には、浜松の遠鉄百貨店で初の個展を行い、たくさんの人に来ていただき、自信ができました。

### 内野はうまいものがいっぱい、人がやさしい

……公務員のかたわら趣味の陶芸を続け、定年退職後、内野に住み、生業とされたわけですね。

名古屋、函館、前橋、松江とほぼ2年おきに転勤をくり返し、引っ越しのたびに山のようにつくった作品を運ぶのが大変でした。2003年に新潟の駐在官事務所

長として赴任し、翌年、定年退職しました。

父が30年ほど前に事業を人に譲り、いま私が住んでいる内野のこの土地に家を設けていました。父の没後は20年ほど前まで母が住み、その後は空き家になっていたのです。定年を迎えて、どこで生活しようかとなったとき、幼い頃からなじみがあり、知り合いもいて、じっくり陶芸に専念できる内野がいちばんいいところなのではないかと思いました。

……内野はどんなまちですか。これからどんな作品をつくっていきたいですか。

お米、なす、枝豆……うまいものがいっぱいある。やさしい人が多い。全国のまちに住みましたが、こんなにリラックスできる場所はありません。

土をひねり、ろくろをまわすことで個性が形になる。釉薬を塗り、窯に入れるとさらに個性を発揮してさまざまな姿を見せてくれる。奥深い世界にさらに挑戦していきます。日頃の料理にも使って、桃山時代の風合いを楽しんでいただきたい。作陶に興味をもってくれる人が増えたらさらに嬉しいです。



本名＝佐々木 實。公務員を退職後、内野西の自宅に窯を築き、桃山時代の志野焼、織部焼に挑んでいる。

作品は地元の料理屋さんでも使われ、大勢の人に親しまれている。

## 利用団体代表者会議を開催しました

おかげさまで内野まちづくりセンターは平成28年10月31日の開所より2周年を迎えることが出来ました。

10月20日に、次年度の定期利用を希望する団体向けに利用団体代表者会議が開かれ、54名の方に出席いただきました。利用の説明や報告が行われ、会議後には利用

者様同士、また管理人との交流を目的とした茶話会を初めて開催しました。皆様から“有意義な時間だった”との声や貴重なご意見をいただくことも出来ました。

現在、趣味や体操、音楽などのサークル活動や、地域の皆様が参加することの出来る催しなどで、子どもから大人まで幅広くご利用



いただいております。今後も皆様にとって、より良いセンターとなるよう邁進して参ります。ぜひお気軽にお立ち寄りください。

## いざという時にどうそなえるか

### 災害にそなえ、避難所運営検討会を開催

この7月、西日本の広範囲を襲った「平成30年7月豪雨」。不意を襲われ、多数の犠牲者を出した災害の爪あとは大きく、今も多くの人々が避難生活や復興生活を余儀なくされています。自分が住んでいる町で災害が発生したら、どんなルートで避難したらいいのか、どれくらいの被害が予想されるのか、避難所はどのように運営したらいいのか。

10月17日、内野まちづくりセンター3階ホールで、うちのエリアの「避難所運営検討会」(防災防犯部主催)が開かれました。公益社団法人・中越防災安全推進機構の講師

から、災害が発生してから避難所を運営するまでのさまざまな課題について講演をいただき、いざというときの避難所となる内野小学校、内野中学校、新潟大学とに分かれて、ワークショップ形式で検討を行いました(35名参加)。

- 地震、津波、洪水、浸水……災害によって何をどう考え、どのように行動しますか
- あなたなら避難所運営をどうすすめますか

講師から出された質問について各グループで話し合い、答えを出して熱心に話し合いました。「災害が発生してから考えるので



は遅いということ、今回の西日本豪雨が改めて教えてくれました。西区からは浸水などいくつかのハザードマップが出され、自治会でも避難訓練が行われています。人ごとと思わず、ふだんから何度も同じことをくり返し、いざというときに供えておくこと。避難所の運営方法も事前にしっかり検討しておくことが大事だと痛感しました」(防災防犯部長・玉木 晴夫さん)

## 内野盆踊りを楽しむ会に太鼓を寄贈

### 内野出身の古俣和歌夫さん

7月28日(土)、今年も上の大神宮で「内野盆踊り大会」が行われました。内野盆踊りを楽しむ会では、7月の初めから内野中学校や内野まちづくりセンターで練習してきましたが、自分たちの太鼓を持たないことが長年の悩みでした。各自治会の太鼓をお借りしていたのですが、盆踊りに来られたお客さま(浅見鉄工建設会長・古俣和歌夫さん)から太鼓を寄贈していただくことになったのです。

私は新潟日報夕刊「おとなプラス」に定期的に執筆しており、7月に「民謡・会津磐梯山のルーツは五ヶ浜甚句だった」という記事を

書きました。五ヶ浜を訪ねて取材で話を聞いた阿部法夫さん(80)に「内野の盆踊りにもおいでください」と声をかけました。記事は盆踊りの前日に掲載され、記事(写真)を見た巻高校時代の同級生・古俣さんが阿部さんに電話をかけ、内野の盆踊りのことを聞いて一緒に駆けつけてくれたのです。

古俣さんは、子ども時代を内野で育ち、盆踊りの音頭(歌詞)や太鼓のリズムが身体に染みついているとのこと。盆踊りの会が太鼓を持っていないことを話したところ、「では寄贈を」と申し出てくれたのです。11月4日、待ちに待った太鼓



が届き、下の大神宮で贈呈式が行われました。メンバーが集まり、乾いた、新しい太鼓の音に酔いしれました。

来年の「内野盆踊り大会」(7月27日・土)では新しい太鼓の音が響き渡ります。ぜひご参加下さい。(古俣慎吾。内野盆踊りを楽しむ会に所属) ※新潟市の補助金を受けて開催しました。

フェイスブックやってます! ぜひご覧下さい



内野まちづくりセンター 内野・五十嵐まちづくり協議会

<https://ja-jp.facebook.com/pages/category/Community.../160551301236287/>

検索



※この広報誌「内野・五十嵐まち協だより」は「新潟市補助事業」を利用して発行しています。